

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人 社団 一就会		
事業所名	グループホーム 湯と里		
所在地	伊豆の国市長岡 953-1		
自己評価作成日	平成23年 12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2290800016&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2290800016&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年 1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活を第一優先に考え、日々の業務にあたっている。  
入居者様の傍らで一緒に時間を過ごすことを大切に、  
意向や思いを把握すると共に基本理念の実践につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ敷地内に母体の病院がある。そのため毎朝医師の往診があったり、内線電話で医師に直接相談できるなど医療連携の高い事業所である。また、敷地内に温泉が引かれていることが特色でそれを楽しみにしている利用者も多い。「湯と里」の名前どおり、ゆったりと過ごしてもらうことをアピールポイントとし、丁寧で制約のない接遇をおこなっている。今年度は職員の入れ替わりも多く、前年度まで出来ていた事が困難になり一部予定していた計画が滞っている。しかしこれを契機に新たな方向性を見出し、勤務帯ごとの職員の役割を見直しや新入職員のスキルアップを図っていきたいという目標をもっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識して職員全体で考え、日々それに基づいた業務をおこなっているか、確認を行っている。	毎年更新される病院指針とは別にホーム独自で理念を作成している。今年度は職員の入れ替わりも多かったため、新人研修や引き継ぎにおいても理念に基づいた介護方針を伝えている。職務期間の長い職員には概ね理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園児との交流。 近くのスーパーへの買い物。 地域のお祭りへの参加。 地元出身の看護学生の実習受け入れなど。	近隣に保育園があり、年1~2回相互に交流している。園児の遊戯披露は賑やかで、利用者に笑顔も多く見られる。また、毎年看護学校の実習を受け入れていて、学生にとっては看護に関する学習成果を実践する場でもあり、利用者とのコミュニケーションも良好であるという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会への参加等を通じて認知症の方の理解や支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で疑問や問題等の意見があれば、検討、改善し次回に報告するようにしている。	参加している地域代表の委員は地元での顔も広く、地域に根差した情報交換も多い。市職員からは他のグループホームの取り組みなどの例示があったり、参加したケアマネからは地域の介護情報なども得られる。併設する小規模多機能と合同で開催することも予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に市担当者に取り組みなど伝え、必要時には市との連携も視野に働きかけている。	運営推進会議には市職員の参加があり、案内や議事録を届けることにより次回の参加につなげている。窓口では、利用者に関する相談をおこなうなど、積極的に関係維持をはかっている。地域包括主催の「地域ケア会議」が毎月開催され、管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	多少徘徊する利用者様がいても玄関の施錠はせず見守っている。 転倒の危険性がある場合も付き添って身体拘束はしない。	ホーム入口、非常階段とも施錠していない。出入り口にセンサーを設置しているが、職員の見守り体制も整っているためセンサー等に頼らずに安全が確保されている。管理者の話では抑制するような言葉を職員から聞くことはなく、そのため利用者も落ち着いて過ごしているという。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については常日頃より意識してケアにあたっており、虐待がないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成後見人制度を利用されている方は2名いらっしゃいます。支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はなるべく納得してもらえるように説明をおこなっているが、どうしても伝えきれないこともある場合は、いつでも連絡を頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置したり、意見箱を玄関に設け、なるべく意見をもらえるようにしている。	家族宛てに写真や一筆箋を送付して利用者の様子を伝えている。意見箱を設置しているが、家族からの苦情や運営に関する意見はほとんどない。運営推進会議に参加する家族の発言では「入居して良かった」といった内容の評価も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々あるが、月に一度だけスタッフ会議には全員参加し、話し合い、職員の提案に耳を傾け改善出来ることは受け入れお互い理解している。	職員会議では、管理者から発言を求める事で職員からの意見を得ている。普段からも職員に直接提案を聞き取るようにし、提案された内容は日誌に記録して職員間で共有している。個人的な相談事はメールを活用することもある。	職員の入れ替わりを防ぐための具体的な方法について模索することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで職員への経営に関しての意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受けた研修に対してスタッフ会議で報告するような機会を設け、勉強し、知識を共有できるようにしている。また自発的な自己啓発の研修などを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と交流を持っていないので、出来るように努める。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に入居者様とコミュニケーションを図るように配慮し、なるべく安心して生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から施設を見学してもらったり、当施設の理念を説明し、納得してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族の思い状況を確認し、改善が図れるようにしている。 サービスや介護全般についても助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることの参加を働きかけ、常に職員は、入居者様に共感をもって、それぞれの生活場面と一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時などに食事介助やトイレ誘導、病院受診の同行等をおこなって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に出かけ、馴染みの人に会ったり、自宅に出かける機会を作り、つながりを維持できるような支援をしている。	面会の少ない場合は個別に電話で対応したり、遠方の家族には「一緒にお手紙書いてみませんか」と提案することもある。外泊や外出については、家族と事前に打ち合わせてスムーズにできるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、話題を提供したり、会話が弾み、皆さんが楽しく過ごせるように、時には仲介役になり、コミュニケーションを図るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族が会話をしに来られてその後の様子などを伺い相談ごとなどを傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の意向の変化に対して言葉や表情などから汲みとり職員同士で話し合いを持ち本位にどうよりよく添えるかを確認するようにしている。	利用者から発語がない場合でも、しぐさや表情の変化を感じ取ることで気づくようにしている。利用者一人一人に対応するため、去年はスタッフ受持ち制を取り入れたが、現在は職員体制が変わったため廃止している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からこれまでの暮らしや、生い立ちを伺い、情報が少ない時は、ご本人やご家族から継続的に引き出せるような会話や機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、その日の体調や気分、日々の言動など本人の状況や状態を確認し、職員で情報を共有してケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。日々の話し合いや、月一回のミーティングの中で職員の意見交換やカンファレンスなどを行っている。	概ね3ヶ月ごとに職員が意見を出しあい、モニタリングしている。最近の取り組みとして、職員に介護計画を浸透させるため「一緒に作成し、行動する」という方針をとるようになった。その結果、職員が計画を理解し主体的に行動するようになってきている。	特に新入職員においては、論理と実践とが相互に向上することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、個別ファイルを準備しており、職員が日々の生活で気付いた点を記入するように努めている。またそれを介護計画にも活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の状況に応じ、通院などに必要な支援に対し臨機応変に対応して個々の不安の解消を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が少ないため、十分な支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、今までの主治医へ受診の支援をしている。隣接する協力医療機関へはホーム職員が付き添う。	隣接の母体病院へ主治医を変更する利用者が多い。母体病院からは毎日医師の往診がおこなわれ、連携も整っている。他病院への受診には家族に同行を依頼している。ホームでは「病院受診・処方薬報告書」を活用し、家族や医師との伝達を記録している様子が確認された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック、体調や表情の変化などに注意を払い、早期発見に取り組んでいる。看護師に相談し、かかりつけ医につなげることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出しており、入院中の様子などは、ご家族や医療関係者に確認しながら退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が悪くなった場合は、すぐにご家族に連絡し、今後の方向性を相談している。ご本人やご家族の希望に沿って支援している。	「最期までここ(湯と里)」と希望する利用者家族も多く、隣接の母体病院と連携しながら受け入れている。昨年も103歳の利用者をはじめ3件の看取り実績があった。職員は利用者の死に喪失感を感じることもあるが、後悔のないよう日々の介護実践を見直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応できるよう普段から備えている。マニュアルを整備して周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接されている病院と一緒に年2回避難訓練をしている。近隣の住民の協力も得ている。	年2回、母体法人の病院や併設する小規模多機能事業所と協力しながら防災訓練を開催している。災害時に備え、非常扉の開放や法人内職員の協力など事前に手順を決めている。地域で開催する防災訓練には、職員と健康な利用者などが参加している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考えさりげない言葉かけや対応を心掛けている。 書類についても書庫管理している。	鍵のかかるキャビネット内にカルテなどの個人情報情報を保管している。利用者の名前を呼ぶ際には失礼のないように、「〇〇さん」と呼んでいる。また職員の対応でふさわしくない言動が見られた場合はその都度管理者が指導しているが、最近ほとんどみられなくなっているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が答えやすく選びやすい問いかけをして自分で決めるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら支援している。 利用者様主体で入浴などもおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院に行ったり買い物に行ってお気に入りの洋服を買ったり、ご家族に依頼し配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のそれぞれの能力に応じてできることをしていただき職員と一緒にしている。 手作りのおやつやレクリエーションでの食事会等、食事が楽しみなものになるようにしている。	母体病院で管理栄養士が献立を作成し、調理された食事が提供されている。食材の盛り付けや片付けなど、利用者もできることは手伝ってもらっている。従来は職員と一緒に食事を摂っていたが、食事介助などが必要になっているため現在は管理者のみと一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養やカロリーを考え、好みを取り入れた献立を考え、個々に合わせた形態で提供している。水分や食事量は把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は、見守りをし、できない方には毎食後のケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しており、少ない方にゼリー等目先を変えて提供して摂取を促している。毎朝の牛乳やヨーグルトの提供、また歩行運動、お腹のマッサージ等を日々行っている。	個人カルテに水分摂取量を記録し、毎朝牛乳やヨーグルトを摂ることにより、自然な排便につながっている。個々の排泄パターンを把握することで一律に誘導することなく、わずかな兆候も察知できて排泄の自立につながっているという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分補給量は把握しており、少ない方にゼリー等目先を変えて提供して摂取を促している。毎朝の牛乳やヨーグルトの提供、又歩行運動、お腹のマッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていないが、一人ひとりの気持ちを確認したうえでタイミングなどを考えて入浴していただいている。	入浴の時間や曜日を定めることなく、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。浴槽は2つあり、仲の良い利用者は一緒に浴室に入ることもある。温泉を楽しみにする利用者もいて、「冷え症」「疲労」などに効果があることが効能表にも記載されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで午睡したり心地よく眠れるよう日中の活動性に配慮はしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや、個々のおクスリ手帳を整理してわかるようにしている。与薬時にも、日付と名前を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を活かして、役割を持ってもらい、編み物や、読書、絵書きなどを行っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	短時間でも外出の時間が持てるよう近隣へ散歩に出かけたり、車椅子の方も外の空気に触れるよう支援している。又、外食に行き美味しいものを食べ気分転換を図っている。	天候がよければ、足湯のある近所の公園まで散歩に出かけている。その他にも複数の散歩コースを設けていて、コース途中の保育園で園児と挨拶したりすることも利用者の楽しみになっている。希望により買い物に出たり、毎月外食などにも出掛けている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿えるように支援している。ご家族よりの電話を取り次ぎ会話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感が感じられるように工夫を凝らし、行事等を行ったり、掲示物を作成したりしている。	共用空間には観葉植物が飾られ、天窓からの採光が明るい。掲示物は季節感が出るように定期的に貼り替えている。元は診療所だった建物をリフォームしたため廊下も広く、車いすでも生活しやすい環境が確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファや椅子に気軽に腰掛けられるようにしている。TVを見たり、会話をしたり一人でくつろげるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用されていた家具を置いたり、危険のないように配慮している。専用TVを持っていただいている方もあり、居心地良く過ごされている。	今年度からは防災について検討し、棚や家具などのレイアウトを見直したり、防災頭巾を常備するなど安全面の充実をはかっている。居室内には馴染みの木製タンスや鏡台が持ち込まれ、利用者ごと馴染みのある空間になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が混乱しないように場所がわかるような工夫をしている。 また、利用者様の身体状況、地震などの災害時、家具などの転倒を予測し安全面に配慮している。		